

災害派遣活動を通して感じたこと

被災地を見て感じたこと

- ・羽咋市の住家被害は、一見すると家の屋根の棟部分の損壊により、ブルーシートにて応急措置を施してあるものが多数であった。
- ・発災から4カ月を経過しており、市内には複数の更地があった。既に被災建物を解体・除却したと想定される。
- ・市内の水道は完全復旧しており、飲食店や店舗、学校等日常生活を取り戻している印象。

活動業務について感じたこと

- ・住家の被害認定調査は、専用アプリを使用したタブレットを活用することにより、被害の判定作業や現場写真の保存など、効率的に実施できた。
- ・当町での被災を想定した場合、被害認定調査の経験者不足や、県内統一の専用アプリが導入されていないことから、調査時に混乱を来すことが容易に考えられるため、経験者の増と専用アプリの早期導入の必要性を実感した。
- ・空き家の認定調査時、倒壊危険度が高いため立入禁止となった。今後想定される空き家の増加および適正な維持管理の重要性について再認識した。

その他

- ・被災者から羽咋市の住家被害の状況は、輪島市や珠洲市等と比べ、一見すると大規模かつ悲惨な倒壊、甚大な被害を受けているように見えないため、世間的にはどうしても輪島市や珠洲市等に目が向けられがちであり、被害状況を外に発信しづらいという声を伺った。悲痛な生の声を聞き、被災者の生活再建に向けて、改めて被災者の心情に寄り添う姿勢の重要性を実感した。